

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国史 I	前期	木 5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	1年	研究室 (5434)、またはfujinami@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、教職課程の教科に関する科目として開設されている。そのため、近代以降の通史を取扱いながら、中学校社会科または高等学校地理歴史科の教員になるために不可欠な外国史の基礎知識を養成するとともに、歴史的事象を多面的多角的に考察するために必要な史料の読解力や、歴史的事象の意義を表現する能力を構築することをねらいとする。</p>	<p>この講義は、教職課程の教科に関する科目として開設されており、中学校社会科、高等学校地理歴史科の免許状取得の必修科目として位置づけられています。</p>
到達目標	<p>(1) 近代以降の世界の歴史の大きな枠組みと展開を、日本の歴史との関係をふまえながら理解することができる。 (2) 世界の歴史に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連について、多面的・多角的に考察することができる。 (3) 世界の歴史に関する史料・資料を読解し、論理的に説明することができる。 (4) 講義で学んだ内容と現代社会との関係性について、意欲的に探究する態度をもつことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？	シラバス内容の理解
	2	近代の幕あけ：大航海時代、ルネサンス、宗教改革	予習プリント・ワークシート
	3	海域アジア世界への進出：ポルトガル、スペイン、オランダの海洋進出	予習プリント・ワークシート
	4	イギリスの革命：清教徒革命、王政復古、名誉革命	予習プリント・ワークシート
	5	独立戦争とアメリカ社会：独立戦争、合衆国憲法、合衆国の拡大	予習プリント・ワークシート
	6	フランス革命とナポレオン：フランス革命、人権宣言、ナポレオン体制	予習プリント・ワークシート
	7	産業革命と経済思想：産業革命、重商主義、資本主義、社会主義	予習プリント・ワークシート
8	アヘン戦争と不平等条約体制：華夷秩序、アヘン戦争、南京条約体制	予習プリント・ワークシート	
9	19世紀のヨーロッパ世界：自由貿易帝国主義、ドイツ統一	予習プリント・ワークシート	
10	朝鮮半島をめぐる諸列強の対立：日清戦争、日英同盟、日露戦争、朝鮮併合	予習プリント・ワークシート	
11	第1次世界大戦：総力戦体制、ロシア革命	予習プリント・ワークシート	
12	戦間期の世界：ベルサイユ=ワシントン体制	予習プリント・ワークシート	
13	アジアの民族運動：辛亥革命、インド民族運動	予習プリント・ワークシート	
14	世界恐慌と各国の対応：ニューディール政策、ブロック経済、ファシズム	予習プリント・ワークシート	
15	第2次世界大戦	予習プリント・ワークシート	
16	学期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。 主な参考文献は、下記の通り。 ①南塚信吾他編『新しく学ぶ西洋の歴史 アジアから考える』（ミネルヴァ書房、2016年） ②川島真、服部龍二編『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007年）</p>		
学びの手立て	<p>① 学びの手立て 単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。講義をしっかりと聞き、講義内容に関するメモを作成し、講義終了後にノートを作成した上で、ワークシートを作成するように求めます。 ② 学びを深めるために 講義内容を振り返ることのできる、自分独自の「ノート作成術」を確立してください。また、予習は必ず取り組んでください。</p>		
評価	<p>到達目標 (1) の評価：予習プリント (10%) 到達目標 (2) の評価：学期末試験 (50%) 到達目標 (3) の評価：ワークシート (20%) 到達目標 (4) の評価：レポート (20%) による総合評価とする。なお、出席が講義回数の3分の2に満たない者は、試験の評価の対象外とする。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>高校地理歴史の免許取得には「外国史Ⅱ」も必修となっている。 また、多面的な歴史認識を深めるために、共通科目の歴史関係科目の履修を勧める。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外国史Ⅱ	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	藤波 潔	1年	研究室 (5434)、またはfujinami@oki.u.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、教職課程の教科に関する科目として開設されている。そのため、古代から中世に至る時代の通史を取り扱いながら、中学校社会科または高等学校地理歴史科の教員として不可欠な外国史の基礎知識を培うとともに、歴史的事象を多面的多角的に考察するために必要な史料の読解力や、歴史的事象の意義を表現する能力を養成することをねらいとする。	単に歴史的な知識を教えるのではなく、「なぜ世界史を学ぶ必要があるのか」について語ることでできる能力を持った教員となるよう、「考える歴史」を実践できるようにしましょう。

学びの準備	到達目標
	(1) 古代から中世に至る世界の歴史の大きな枠組みと展開を、日本の歴史との関係性をふまえながら理解することができる。 (2) 世界の歴史に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連について、多面的・多角的に考察することができる。 (3) 世界の歴史に関する史料・資料を読解し、論理的に説明することができる。 (4) 講義で学んだ内容と現代社会との関係性について、意欲的に探究する態度をもつことができる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：講義に関するルールは何か？	シラバス内容の理解
	2	オリエント世界の成立：エジプト文明、メソポタミア文明	予習プリント・ワークシート
	3	インドの古代文明：インダス文明、バラモン教、仏教	予習プリント・ワークシート
	4	中国の古代文明：殷、周、春秋戦国	予習プリント・ワークシート
	5	中国の古代帝国：秦・漢	予習プリント・ワークシート
	6	隋・唐帝国と世界：隋、唐	予習プリント・ワークシート
	7	モンゴル世界の拡大：モンゴル、元、4ハーン国	予習プリント・ワークシート
	8	明帝国とアジア世界：明、倭寇	予習プリント・ワークシート
	9	満州人と清帝国の成立	予習プリント・ワークシート
	10	イスラーム世界の成立：ムハンマド、イスラーム教	予習プリント・ワークシート
	11	地中海世界とギリシア：ポリス、ペルシア戦争、民主政治	予習プリント・ワークシート
	12	ローマ世界の展開：三頭政治、ローマの平和	予習プリント・ワークシート
	13	西ヨーロッパ世界の成立：ゲルマン人、フランク王国	予習プリント・ワークシート
	14	封建社会の展開：荘園、地主、農奴	予習プリント・ワークシート
15	ローマ=カトリック教会の発展：十字軍、叙任権闘争	予習プリント・ワークシート	
16	学期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	特定のテキストは使用せず、レジュメを配付する。 主な参考文献は、下記の通り。 中井義明他『教養のための西洋史入門』（ミネルヴェ書房、2007年）

学びの実践	学びの手立て
	① 学びの手立て 単に出席しただけでは、単位の修得につながりません。また、出席自体は評価の対象ではありません。講義をしっかりと聞き、講義内容に関するメモを作成し、講義終了後にノートを作成した上で、ワークシートを作成するように求めます。 ② 学びを深めるために 講義内容を振り返ることができる、自分独自の「ノート作成術」を確立してください。また、予習は必ず取り組んでください。

学びの実践	評価
	到達目標 (1) の評価：予習プリント (10%) 到達目標 (2) の評価：学期末試験 (50%) 到達目標 (3) の評価：ワークシート (20%) 到達目標 (4) の評価：レポート (20%) による総合評価とする。なお、出席が講義回数の3分の2に満たない者は、試験の評価の対象外とする。

学びの継続	次のステージ・関連科目
	高校地理歴史の教員免許取得には、外国史Ⅰ・Ⅱ両方とも必修となっている。世界の歴史を通史として理解するためにも、外国史Ⅰを履修することが望ましい。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	憲法 I	通年	火 5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-儀部 和歌子	1年	授業終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>教職を目指しているみなさんには、憲法の細かい知識よりも、「そもそも憲法とは何か」「なぜ教職を目指す人にとって憲法が必須科目なのか」「主権者であるということは具体的にどういうことなのか」「少数者の人権を保障するということは具体的にどういうことなのか」ということを実感していただくことが大切だと考えています。このような実感を目指した講義を行いたいと思います。</p>	<p>現在、日本国憲法の改正は現実味を帯びています。その問題について、主権者として、また主権者を育てる教職に就く者としてご自分で判断していただけるよう、できるだけ多くの情報を提供したいと考えています。また、多くの事例を通していわゆる「人権感覚」を掴んで頂けるようにしたいと考えています。</p>
到達目標	「憲法とは何か」を正確に理解するとともに、社会に想起する様々な問題を憲法の視点から考えられるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	法とは何かー国家と法	
	3	憲法とは何か	
	4	憲法を取り巻く現状～憲法改正の問題点	
	5	公権力のイメージ①（映画視聴）	
	6	公権力のイメージ②（映画視聴）	
	7	基本的人権の歴史	
	8	基本的人権の尊重	
	9	明治憲法と日本国憲法とコスタリカ憲法	
	10	平和主義	
	11	国民主権と日本国憲法の三大基本原理について	
	12	人権は誰に対して保障されているのか	
	13	人権を制約することは許されるか	
	14	新しい人権	
	15	不合理な差別とは①	
	16	前期復習テスト	
	17	不合理な差別とは②	
	18	思想良心の自由	
	19	信教の自由と政教分離原則	
	20	表現の自由①	
	21	表現の自由②	
	22	職業選択の自由	
	23	生存権	
	24	教育を受ける権利～教育権の所在	
	25	働く人の権利	
	26	被疑者・被告人の権利	
	27	裁判員制度	
	28	人権と統治機構の関係	
	29	現代日本の憲法問題	
30	総復習（質問に対する回答）		
31	試験		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しません。ただし、六法等、日本国憲法の条文が掲載されているものを必ず持参すること（講義中に指名して、条文を読んでいただくこともあります）。参考文献は以下のとおり。（1）井端正幸・渡名喜庸安・中山忠克編『憲法と沖縄を問う』法律文化社 （2）伊藤真『高校生からわかる日本国憲法の論点』株式会社トランスビュー</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>「履修の心構え」 受講時に指示がある際は、その都度、必ず憲法の該当条文を参照すること（そのために憲法の条文が掲載されているもの必携）。後期に予定しているグループ討論では積極的に討論に参加すること。</p>
	<p>評価</p> <p>後期末試験（論述）、夏休み明けの前期復習試験（筆記穴埋め）で基本的に評価します。その上で、講義態度（六法持参の有無やグループ討議への参加態度等）についての評価を加味し、最終的に評価します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p>

※ポリシーとの関連性 「実社会で活躍できる人材の育成」に関連する講義であり、IT技術における基礎知識を学びます。

[/実験実習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	システム設計実習	後期	水5	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	LEGO MINDSTORMSを用いて移動自律ロボットを組み立て、センサからの外部入力に応じてロボットの動きを制御する仕組みを学ぶ。タイムトライアルによる競技を通して制御プログラムについて各自が創意工夫を行うことで問題解決能力を身につけることを目指す。	ETロボコン2018デベロッパー部門プライマリークラスに出場します。 チームで力を合わせて取り組みましょう。

到達目標	ロボットの構造・動作の仕組みを理解し、チームで課題を共有し制御システムを構築することができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	教科書・参考書の内容確認
	2	ロボット作成、開発環境の設定	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	制御プログラミング(1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	制御プログラミング(2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	5	ライントレース(ミニ競技会)	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	オブジェクト指向とUML	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	UMLモデリング(1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	UMLモデリング(2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	9	UMLモデリング(3)	当該演習の復習/次回演習の予習
	10	障害物回避(ミニ競技会)	当該演習の復習/次回演習の予習
	11	全体の総復習	当該演習の復習/次回演習の予習
	12	グループ製作によるシステムの企画・開発(1)	課題作成
	13	グループ製作によるシステムの企画・開発(2)	課題作成
14	グループ製作によるシステムの企画・開発(3)	課題作成	
15	グループ製作によるシステムの企画・開発(4)	課題作成・発表準備	
16	競技会	課題作成・発表準備	
	テキスト・参考文献・資料など		
	竹政昭利 他「かんたんUML入門」技術評論社(2013) ETロボコン実行委員会「ロボットレースによる組込み技術者養成講座」毎日コミュニケーションズ(2008) 河合昭男「ゼロからわかるUML超入門」技術評論社(2010) オービス総研「その場でつかえるしっかり学べるUML2.0」秀和システム(2006) 桐越信一他「UMLモデリング教科書 UMLモデリングL2 第2版」翔泳社(2008)		
	学びの手立て		
	難解な部分も多いので予習・復習を怠らないようにしてください。 テキスト以外の参考文献、またWeb上の情報通信に関する資料を積極的に利用するようにしてください。		
	評価		
	演習への参加状況、課題の提出、報告時のレポートならびにプレゼンテーション等により総合的に評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報処理システム論、情報通信ネットワーク実習
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	自然地理学概論	前期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前門 晃	1年	maekado@11.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	私達が生活する地球の表面では、さまざまな自然現象がみられ、私達の生活は自然現象から大きな影響を受けている。その自然現象も地球の歴史を通して変化している。地球の表面にみられる気候、土、地形、水について、私達の住んでいる沖縄からみることによって、自然の認識の仕方について考える。	教科書には、自然環境の話がでできます。皆さんが教壇に立ったとき、自然環境について楽しく教えられるように、生徒の100歩先を行く知識を身につけられるようにします。
到達目標	私達が暮らす沖縄・琉球列島には、他府県には見られない特徴的な自然環境があります。特徴的な自然環境の実態、その仕組みを理解することによって、地域の自然環境に自信と誇りを持てるようになり、自然環境とどのように向き合っているのかの知恵が得られます。自然環境の仕組みについての知識を習得し、沖縄・琉球列島の地域特性を理解する能力を養い、沖縄・琉球列島の自然環境が抱える課題を解決する能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドダンス	シラバスをよく読むこと
	2	サンゴ礁を育む島々の気候	参考文献①
	3	島をとりまくサンゴ礁とその成り立ち (1)	参考文献①②
	4	島をとりまくサンゴ礁とその成り立ち (2)	参考文献①②
	5	島をとりまくサンゴ礁とその成り立ち (3)	参考文献①②
	6	海面と地殻の変動を記録する石灰岩段丘 (1)	参考文献①②
	7	海面と地殻の変動を記録する石灰岩段丘 (2)	参考文献①②
8	溶けゆく島々 (石灰岩の溶食) (1)	配布する資料の参考文献	
9	溶けゆく島々 (石灰岩の溶食) (2)	配布する資料の参考文献	
10	溶かされたサンゴ礁—熱帯カルスト (1)	参考文献①	
11	溶かされたサンゴ礁—熱帯カルスト (2)	参考文献①	
12	隆起サンゴ礁の赤い土—島尻マーヅ (1)	配布する資料の参考文献	
13	隆起サンゴ礁の赤い土—島尻マーヅ (2)	配布する資料の参考文献	
14	島尻層群泥岩の丘陵 (1)	配布する資料の参考文献	
15	島尻層群泥岩の丘陵 (2)	配布する資料の参考文献	
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：使用しません。資料を配布します。配布する資料に参考文献が記載されています。 参考文献：①河名俊男 (1988)：『琉球列島の地形』新星図書出版 ②町田 洋ほか (2001)：『日本の地形7 九州・南西諸島』東京大学出版会	
	学びの手立て	高等学校教諭一種免許状「地理歴史」、中学校教諭一種免許状「社会」に必要な科目です。授業のまとめを書かせます。	
	評価	期末試験：70点 上記の到達目標を評価する 平常点：30点 授業時間中の提出物を評価する	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	地球表面の姿がどのようにして形作られてきたのかを理解できるようになる。 関連科目：「自然地理学特講」

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	自然地理学特講	後期	木6	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-前門 晃	1年	maekado@11.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 私達が生活する地球の表面はさまざまな姿をしており、その姿は地球の歴史を通して変貌してきた。現在私達が目の前にする地球表面の姿がどのようにして形作られてきたのか、地面の姿のできかたを考える。	メッセージ 教科書には、自然環境の話がでできます。皆さんが教壇に立ったとき、自然環境について楽しく教えられるように、生徒の100歩先を行く知識を身につけられるようにします。
	到達目標 地球表面に見られる自然環境は、どこでも同じような仕組みで成り立っています。私達が暮らす沖縄・琉球列島には、他府県には見られない特徴的な自然環境がありますが、その仕組みも同様です。自然環境の仕組みについての知識を習得し、沖縄・琉球列島の地域特性を理解する能力を養い、沖縄・琉球列島の自然環境が抱える課題を解決する能力を身につける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	河川の作用 (1)	参考文献①②, 資料中の参考文献
	3	河川の作用 (2)	参考文献①②, 資料中の参考文献
4	河川の作用 (3)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
5	土壌侵食：赤土流出 (1)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
6	土壌侵食：赤土流出 (2)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
7	土壌侵食：赤土流出 (3)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
8	土壌侵食：赤土流出 (4)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
9	河谷地形 (1)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
10	河谷地形 (2)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
11	河谷地形 (3)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
12	海岸地形 (1)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
13	海岸地形 (2)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
14	海岸地形 (3)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
15	海岸地形 (4)	参考文献①②, 資料中の参考文献	
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：使用しません。資料を配布します。配布する資料に参考文献が記載されています。 参考文献：①町田 貞 (1984)：『地形学』大明堂 ②佐藤 久・町田 洋 (1990)：『地形学』朝倉書店		
	学びの手立て 高等学校教諭一種免許状「地理歴史」に必要な科目です。授業のまとめを書かせます。冬休みにレポートを課します。レポートのテーマは冬休みの前の授業時間に知らせます。		
	評価 期末試験：50点 上記の到達目標を評価する レポート：30点 上記の到達目標を評価する 平常点：20点 授業時間中の提出物を評価する		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	心理学概論	通年	木2	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-遠藤 直子	1年	ptt234@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 心理学の歴史や研究法、領域、各分野の重要研究や理論、日常生活や臨床への応用などについて学び、心理学について理解を深め、興味・関心を高めることをねらいとする。また、学んだ知識を日常の場面と結びつけて考えたり、科学的・客観的な態度を身につけることをねらいとする。	メッセージ 心理学は、興味や関心を引く話題に富む、大変身近に感じられる学問です。その反面、科学的な裏付けのない説が流布してしまいがちな学問分野でもあります。心理学を学びながら、基礎知識を身につけるだけでなく、科学的・客観的に物事を考える態度も身につけていきましょう。また、日常の出来事と心理学の知識を結びつけて考える楽しさも一緒に味わいましょう。
	到達目標 ①心理学の基礎知識（用語・理論）を理解し、説明できるようにする。②日常の出来事や問題について、心理学の知識を用いて考え、説明できるようにする。③科学的・客観的に物事を考えることができるようにする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、心理学とは	シラバスの理解、配付資料の予習
	2	心理学の歴史と領域1	豆テスト復習、次週の予習、課題
	3	心理学の歴史と領域2	同上
	4	記憶1	同上
	5	記憶2	同上
	6	記憶3	同上
	7	学習1	同上
	8	学習2	同上
	9	学習3	同上
	10	感覚・知覚1	同上
	11	感覚・知覚2	同上
	12	感覚・知覚3	同上
	13	思考1	同上
	14	思考2	前半全体の復習
	15	思考3 及び前半の振り返り	同上
	16	後半のオリエンテーション、及び脳と心1	豆テスト復習、次週の予習、課題
	17	脳と心2	同上
	18	脳と心3	同上
	19	感情・情動・ストレス1	同上
	20	感情・情動・ストレス2	同上
	21	感情・情動・ストレス3	同上
	22	社会心理学1	同上
	23	社会心理学2	同上
	24	社会心理学3	同上
	25	発達心理学1	同上
	26	発達心理学2	同上
	27	発達心理学3	同上
	28	臨床心理学1	同上
	29	臨床心理学2	同上
30	臨床心理学3	全体の復習	
31	期末テスト		

学 び の 実 践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>【教科書】教科書は使用せず，講義毎に資料を配付します。参考になる書籍などは，その都度紹介します。</p> <p>【指定図書】「はじめてふれる心理学（ライブラリ 心の世界を学ぶ―1）」榎本博明著 サイエンス社</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>【履修のの心構え】心理学概論を受講する前に，倫理学概論と哲学概論を受講しておくことが望ましい。また，高校公民の免許を志望する学生（人間福祉学科を除く）の登録を優先します。 【学びを深めるために】授業で学んだ用語や現象などについて，自主的に調べてさらに理解を深めましょう。また，ほぼ毎回，豆テストを行います。授業内容を理解できたか，その都度確認しよう。</p>
	<p>評価</p> <p>成績評価は中間テスト40点，期末テスト40点，課題（不定期で数回）20点の合計とします。ただし，中間・期末テストのいずれかを欠いても単位は認めません。テストは持ち込み不可。課題の詳細は授業で説明します。また，出席日数が2/3に満たない場合は単位を認めません。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>客観的に物事を捉えようとする態度と，専門知識と日常を繋げる態度を継続し，人間や社会についてさらに学んでいきましょう。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報通信ネットワーク実習	前期	水2	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小渡 悟	2年	E-mail: sodo@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	産業社会における情報通信ネットワークの技術基盤を理解し、実習を通してネットワークシステムの構築と運用と保守管理等について理解を深める。	省電力小型パソコンとしての利用、無線LAN設定、サーバー(Web, ファイルサーバー)構築、プログラミングの基本、電子工作、I2Cデバイスの制御、インターネットサービスを利用した応用まで行います。
到達目標	Raspberry Piと電子工作を通してネットワーク技術基盤の知識、IoTプログラミングの技術を修得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	教科書・参考書の内容確認
	2	ネットワークの基本	当該演習の復習/次回演習の予習
	3	Raspberry Piの操作と設定(1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	4	Raspberry Piの操作と設定(2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	5	小型Linuxマシンとして利用する(1)	当該演習の復習/次回演習の予習
	6	小型Linuxマシンとして利用する(2)	当該演習の復習/次回演習の予習
	7	プログラム(Scratch, Python)	当該演習の復習/次回演習の予習
	8	電子回路の制御(1)	当該講義の復習/次回講義の予習
	9	電子回路の制御(2)	当該講義の復習/次回講義の予習
	10	I2Cデバイスの制御	当該講義の復習/次回講義の予習
	11	グループ製作によるシステムの企画・開発(1)	課題作成・発表準備
	12	グループ製作によるシステムの企画・開発(1)	課題作成・発表準備
	13	発表会	課題作成・発表準備
14	個人製作によるシステムの企画・開発(1)	課題作成・発表準備	
15	個人製作によるシステムの企画・開発(2)	課題作成・発表準備	
16	最終発表会	発表準備	
学びの手立て	テキスト・参考文献・資料など テキスト：福田和宏「これ1冊でできる! ラズベリー・パイ 超入門 改訂第4版」ソーテック社(2017) 参考書： 阿部和広 他「Raspberry Piではじめるどきどきプログラミング増補改訂第2版」日経BP社(2016) 石井モルナ 他「みんなのRaspberry Pi入門 第3版」リックテレコム(2016)		
評価	「履修の心構え」遅刻・欠席をしないこと。毎回演習課題および予習課題を課すので、必ず取り組むこと。 「学びを深めるために」指定テキストだけでなく、参考文献も適宜調べること。		
評価	出席回数が3分の2未満は不可。グループ制作によるシステムの完成度、個人製作によるシステムの完成度、ならびに、演習への参加度などを勘案して総合的に行う。 総合評価の9割以上「秀」、8割以上「優」、7割以上「良」、6割以上「可」とし6割未満「不可」とする。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：情報通信ネットワーク論、システム設計実習
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人文地理学概論	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮内 久光	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>地理的な見方の基本は「どこに、どのようなものが、どのように広がっているのか、諸事象を位置や空間的な広がりとの関わりで捉えること。地理的事象にはどのような空間的な規則性や傾向性があるのか、地理的事象を距離や空間的な配置に留意して捉えること。」である。本講義ではこのような視点で農業、工業、小売業の立地を検討することで地理の見方を養うものである。</p>	<p>将来、中学社会科、高校地歴科で地理分野を指導する際に、地理の見方や考え方は非常に重要になります。そのためには教師自身が地理の見方や考え方を身に付けなければなりません。ただし、地理の見方や考え方は漠然とした概念なので、この授業で学ぶ立地論の検討を通して身に付けていってもらえは、と思っています。</p>
到達目標	<p>①チューネンの農業経営様式に関する理論を理解する。 ②ウェーバーの工業立地論を理解したうえで、現実の工場配置を理論から説明できるようにする。 ③コールセンターの立地展開とそこで働く女性の現状について理解する。 ④コンビニエンスストアの立地を流通システムの面から説明できるようにする。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人文地理学とはどのような学問なのか	地理学の概念について調べておく
2	チューネンの農業立地論の概要を理解する。	チューネン理論について復習する	
3	チューネン理論の意義と日本や沖縄の農業の現状を検討する。	理論と現状について復習する。	
4	シミュレーション教材「カリフォルニア州の農民行動」を行う。	ゲーム教材の有効性と応用を考える	
5	ウェーバーの工業立地論の概要を理解する。	ウェーバー理論について復習する	
6	ウェーバーの工業立地論を輸送費の面から最適立地を検討する。	輸送費算出の計算を復習する	
7	ウェーバーの工業立地論を輸送費と労働費の両面から最適立地を検討する。	輸送費と労働費算出計算を復習する	
8	現代日本における各産業の工場立地をウェーバー理論から検討する①	現実を理論で説明できるように復習	
9	現代日本における各産業の工場立地をウェーバー理論から検討する②	現実を理論で説明できるように復習	
10	沖縄県におけるコールセンターの立地展開と地域の特徴を理解する。	沖縄のCCについて情報収集をする	
11	コールセンターで働く女性に対するサポート体制を理解する。	女性支援について情報収集をする	
12	コールセンターで働く女性の生産と再生産について考察する。	母親などに共働きについて話を聞く	
13	シミュレーション教材「コンビニエンスストアの立地」を行う。	ゲーム教材の有効性と応用を考える	
14	流通の側面からみるコンビニエンスストアの展開について検討する。	立地を理論で説明できるように復習	
15	オフィス立地の諸理論と日米のオフィス立地の比較検討を行う。	立地を理論で説明できるように復習	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは使用しません。プリントを配布します。</p>		
学びの手立て	<p>教職の授業ですから、授業を聞きながら、どこが将来社会科系教員になった場合に参考にできるのかを常に意識をしながら聴講してください。</p>		
評価	<p>期末試験100% なお、この授業の内容について自分で努力をしたことについては、個別に評価して加点する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>後期に「人文地理学特論」を開講しますので、継続して履修すると、地理の見方や考え方がより深まると思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人文地理学特講	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-宮内 久光	1年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義では地形図の読図を通して、都市や村落の形態や構造について都市地理学や集落地理学の理論を現実社会に合わせて講述する。また、新旧の地形図を比較することで、地域の変容や地域の課題を考察する。この講義を通して、受講者は地形図への苦手意識が軽減されると同時に、中学社会や高校地歴科の教員として必要な「地理的見方」や「地理的考え方」が身につけられると思われる。</p>	<p>地理教育の中で、地形図の読図は重要な位置を占めています。今講義では教室での読図指導のほか、沖縄県内各地に出かけ、地形図と現地とを照合させる巡検を5回用意しました。巡検は土・日・祝日などに行います。参加は自由です。各自の責任で積極的に巡検に参加することで、地形図の扱いは飛躍的に向上すると思われる。</p>
到達目標	<p>①地形図で簡単な図上計測ができる。[情報リテラシー、専門性] ②地形図から都市形態を読み取ることができる。[情報リテラシー、専門性] ③地形図から集落形態を読み取ることができる。[情報リテラシー、専門性] ④地形図を現地と対応して地域の特徴を観察することができる。[情報リテラシー、専門性]</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画	時間外学習の内容	
	回	テーマ	
	1	オリエンテーションおよび地形図の基本	浜比嘉島巡検
2	地形図を用いた図上計測（距離，面積）を行う。		
3	地形図を用いた図上計測（角度）を行う。		
4	計画都市・札幌の都市構造と都市形成について地形図から読図する（明治）。	津堅島巡検	
5	計画都市・札幌の都市構造と都市形成について地形図から読図する（大正）。		
6	計画都市・札幌の都市構造と都市形成について地形図から読図する（昭和・平成）。		
7	城下町の空間構造について	屋我地島巡検	
8	城下町・金沢の空間形成について絵地図から読図する。		
9	近代期・金沢の都市構造と都市問題について地形図から読図する。		
10	近代期・金沢の都市構造と都市問題について地形図から読図する。		
11	那覇の都市構造と都市形成について地形図から読図する。	那覇市内巡検	
12	那覇の都市構造と都市形成について地形図から読図する。		
13	散村・砺波平野の読図と住民の生活について論じる。		
14	沖縄の集落の成立と形態の特徴を地形図から読図する。	南部農村巡検	
15	平民百姓村と氏族百姓村における生活文化を比較考察する。		
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など	平岡昭利編『日本の地域変貌』海青社 2008年，3,292円	
	学びの手立て	積極的に巡検に参加してください。	
	評価	学期末試験100% 巡検参加者は加点する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	前期の「人文地理学概論」が立地論を通して地理的見方・考え方を学びます。もし、まだ未履修の場合は、こちらも学習すれば、地理教育の基本が一通り学べます。また、地理学関係の専門科目も積極的に受講してください。

※ポリシーとの関連性

専門職業人として社会貢献できる能力を習得させるための専門的な知識と実践的な経験に基づく資格科目の提供。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地誌 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1 年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地誌 I では、世界各地を取り上げ、地誌的アプローチを試みる。	メッセージ 世界のできごとに関心を持ち、わからない場所については地図帳を引く習慣をつけよう。
	到達目標 世界の諸地域の事柄について、自然環境、人間の諸活動を通じて理解できるようにする。	

学びの準備	到達目標 世界の諸地域の事柄について、自然環境、人間の諸活動を通じて理解できるようにする。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、地誌について①	配布プリント確認
	2	地誌について②	配布プリント確認
	3	ヨーロッパ州①	資料地理の研究、ノートの確認
	4	ヨーロッパ州②	資料地理の研究、ノートの確認
	5	アフリカ州①	資料地理の研究、ノートの確認
	6	アフリカ州②	資料地理の研究、ノートの確認
	7	北アメリカ州①	資料地理の研究、ノートの確認
	8	北アメリカ州②	資料地理の研究、ノートの確認
	9	北アメリカ州③	資料地理の研究、ノートの確認
	10	南アメリカ州①	資料地理の研究、ノートの確認
	11	南アメリカ州②	資料地理の研究、ノートの確認
	12	オセアニア州①	資料地理の研究、ノートの確認
	13	オセアニア州②	資料地理の研究、ノートの確認
	14	アジア州①	資料地理の研究、ノートの確認
	15	アジア州②	資料地理の研究、ノートの確認
16	テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト: 帝国書院『新詳高等地図』1800円、帝国書院『新詳資料地理の研究』1800円 参考文献: 田辺裕監修 (1997) 『図説大百科世界地理』、朝倉書店
-------	---

学びの実践	学びの手立て 毎回、世界の各諸地域について説明の後、パワーポイントをみてもらい、ノートにまとめるスタイルで授業をすすめる。 必ず、学習した地域はテキストやノートなどで復習しておくこと。 追試、再試は行わない。 【日文・英米以外対象】 ※地誌 I は中学校社会科、高校地歴科免許状の必修科目
-------	---

学びの実践	評価 成績評価は、数回のレポートの提出と出席および試験によって総合的に判断する
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 日本国内の諸地域について関心を持ってもらう。→地誌 II 沖縄県内の諸地域について関心を持ってもらう→沖縄の地理(共通科目: 沖縄関係科目群)
-------	---

※ポリシーとの関連性

専門職業人として社会貢献できる能力を習得させるための専門的な知識と実践的な経験に基づく資格科目の提供。

[/一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	地誌Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	小川 護	1年	メールでお願いします。 ogawa@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 地誌Ⅱでは日本各地を取り上げ、地誌的アプローチを試みる。	メッセージ 日本のできごとに関心を持ち、わからない場所については地図帳を引く習慣をつけよう。
	到達目標 日本の諸地域の事柄について、自然環境、人間の諸活動を通じて理解できるようにする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	配布プリントの確認
	2	九州地方①	資料地理の研究、ノートの確認
	3	九州地方②	資料地理の研究、ノートの確認
	4	中国・四国地方①	資料地理の研究、ノートの確認
	5	中国・四国地方②	資料地理の研究、ノートの確認
	6	近畿地方①	資料地理の研究、ノートの確認
	7	近畿地方②	資料地理の研究、ノートの確認
	8	中部地方①	資料地理の研究、ノートの確認
9	中部地方②	資料地理の研究、ノートの確認	
10	関東地方①	資料地理の研究、ノートの確認	
11	関東地方②	資料地理の研究、ノートの確認	
12	東北地方①	資料地理の研究、ノートの確認	
13	東北地方②	資料地理の研究、ノートの確認	
14	北海道地方①	資料地理の研究、ノートの確認	
15	北海道地方②	資料地理の研究、ノートの確認	
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト:帝国書院『新詳高等地図』1800円、帝国書院『新詳資料地理の研究』1800円 参考文献:日本の地誌.朝倉書店, 2005、日本の地誌、立正大学地理学教室編.古今書院, 2007.		
	学びの手立て 毎回、日本の各諸地域について説明の後、パワーポイントをみてもらい、ノートにまとめるスタイルで授業を進める。 必ず、学習した地域はテキストやノートなどで復習しておくこと。 追試、再試は行わない。 【日文・英米以外対象】 ※地誌Ⅱは中学校社会科、高校地歴科免許状の必修科目		
	評価 成績評価は、数回のレポートの提出と出席および試験によって総合的に判断する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 世界の諸地域について関心をもってもらう。→地誌Ⅰ 沖縄県内の諸地域について関心を持ってもらう→沖縄の地理(共通科目:沖縄関係科目群)
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	哲学概論	通年	木6	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 信哉	1年	講義時間が望ましいのですが、講義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講座は教職を志す人に、哲学の概略を知ってもらうことを目的としています。具体的なイメージが湧きにくい学問ですが、哲学とは考えること自体を反省する学問です。過去の哲学者たちに学びますがそれを暗記するのではなく、対話相手として自分自身で考えるというものです。本講座では主として前半に哲学の紹介と近代までの学説史の紹介、後半でさまざまな哲学的問題について検討します。</p>	<p>予備知識は取りたてて必要ありませんが、熱心に学ぶ意欲は期待しています。教室で語られるどんなことについてであれ、知らないということ、判らないことは何も悪くはありません。これから知り、判るようになれば良いのです。ただ、自分が判るか判らないかを考えないことは良くありません。自分が判っているかどうかをつねに考え、判らないときには遠慮なく質問してほしいと思います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学という語の本来の意味から、哲学的に考えるとはどういうことかまでを理解する。 ・さまざまな哲学的問題を知り、それらを自分でも説明できるようになる。 ・教育を哲学の観点から考える視点を心得、どのような教育が望ましいかを考える。 ・さまざまな哲学的問題のなかから、自分自身の関心を見つけて考えられるようになる。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	シラバスを読んでくるように。
	2	哲学という語の意味について考える。	講義後の復習をするように。
	3	哲学とはどういうことか (1) 知識について。	講義後の復習をするように。
	4	哲学とはどういうことか (2) 知識について。	講義後の復習をするように。
	5	哲学はどのように始まったかを考える。	講義後の復習をするように。
	6	ソクラテスとプラトンの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	7	アリストテレスの倫理学を紹介する。	人物について自分でも調べる。
	8	哲学と宗教との出会いについて考える。	講義後の復習をするように。
	9	アウグスティヌスの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	10	トマス・アクィナスの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	11	近代哲学の特徴について考える。	講義後の復習をするように。
	12	ベーコンとホッブズの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	13	デカルトとロックの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	14	ヒュームとカントの考えを紹介する。	自分の立場にあてはめてみる。
	15	近代までの哲学史を振り返る。	講義後の復習をするように。
	16	前期試験。	自分の理解を確認する。
	17	我々にとっての哲学：同時代について考える。	講義後の復習をするように。
	18	近代から現代へ：ヘーゲルの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	19	マルクスとニーチェの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	20	フッサールとハイデガーの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	21	ウィトゲンシュタインと言語哲学を紹介する。	人物について自分でも調べる。
	22	正しさとはどういうことかを考える。	自分でも考えてみる。
	23	あらためて知識について考える。	自分でも考えてみる。
	24	科学と科学以外の知識について考える。	自分でも考えてみる。
	25	知ることと生きる実践との関係を考える。	自分でも考えてみる。
	26	生きるものと世界との関係を考える。	自分でも考えてみる。
	27	個であることについて考える。	自分でも考えてみる。
	28	言語と社会とについて考える。	自分でも考えてみる。
	29	最後にあらためて教育について考える。	自分でも考えてみる。
30	どんな理解が得られたかを検討する。	自分の考えを再検討する。	
31	まとめ。およびレポート回収。	自分の理解を確認する。	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。参考文献は必要に応じて教室で指示します。まずは図書館で各種事典類を引く習慣を身につけるように。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>受講者の人数にも多少異なりますが、こちらから諸君にも質問します。活発な議論となることを望みます。出席も含めて評価については厳正であるように努めますが、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも講義には積極的に参加するように。あとでというのではなく、まずその場で考えるということをお願いしたいと思います。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとの確認で十分です。</p>
	<p>評価</p> <p>前期最終回もしくは後期講義時の最初の方で試験をします（試験の日程は名簿が決定したときに受講者諸君の希望を聞いて決めますが、希望が分かれば前期最終回にします）。他に後期最終回にレポートを提出してもらいます。それぞれ50パーセントの重みですので片方では単位は取得できません。気をつけるように。評価方法の細部は、初回の合意作りのときに希望が出たら考慮します。考えがあれば聞かせてください。出席も取りますが、受講者が出席することは最低限の条件ですので出席それ自体を特別に評価することはありません。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>哲学や倫理学は抽象的な議論になりがちですが、具体的な問題を考えるときの重要なヒントを与えてくれます。特に専門家を目指すのでないかぎり人名などを細かく覚える必要はありませんが、教室で学んだ考え方のスキルは当人の努力次第で役立ちます。皆さんがこのあと多くのことを学ぶにあたってぜひ役立てるように努めてください</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本史	通年	月3	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	市川 智生	1年	tomo-ichikawa@hotmail.co.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>1) 考古・古代から近代・現代にいたる日本の通史を、政治・外交・経済・文化を軸に概説する。</p> <p>2) 各時代の冒頭に史料についての回を設け、歴史叙述の成り立ちを説明する。</p> <p>3) 講義の内容は、最新の歴史学の研究成果に基づくもととし、中学・高校教科書の記述のもととなる学説の変遷についても説明する</p>	<p>本講義は、教職課程の「教科に関する科目」であり、中学校社会科および高等学校地理歴史科教員免許取得のための必修科目である。</p>
到達目標	<p>1) 日本の通史を把握し、中学校および高校教員として必要な知識を身に着ける。各時代の特徴的な出来事や人物について理解を深め、因果関係を説明できるようになる。</p> <p>2) 考古・古代から近代・現代にいたる日本の歴史がどのような史料をもとに語られているのかを理解する。</p> <p>3) 疑問に感じた事柄を、文献などによって自ら調べ解決することができるようになる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講ガイダンス	
	2	古代の史料	配布資料の復習、参考文献の確認。
	3	日本列島の原始・古代	同上
	4	律令国家の成立	同上
	5	平安王朝の形成	同上
	6	平安政治の展開と兵乱	同上
	7	摂関政治と国風文化	同上
	8	中世の史料	同上
	9	中世の史料	同上
	10	鎌倉・京・荘園	同上
	11	室町時代の政治・社会・文化	同上
	12	戦国時代の政治・社会・文化	同上
	13	近世の史料	同上
	14	天下統一	同上
	15	江戸幕府の成立	同上
	16	前期試験	前期分の復習。
	17	元禄の社会と文化	配布資料の復習、参考文献の確認。
	18	享保改革と社会変容	同上
	19	幕末の政治・外交	同上
	20	近現代の史料	同上
	21	明治維新と地域社会	同上
	22	明治憲法と帝国議会の成立	同上
	23	日清・日露戦争と都市騒擾	同上
	24	政党政治の展開	同上
	25	植民地領有と日本社会	同上
	26	明治・大正期の日本経済	同上
	27	昭和戦前期の日本経済：恐慌の時代	同上
	28	昭和の戦争・敗戦	同上
	29	政党の復活と地方自治	同上
30	戦後の生活と高度経済成長	同上	
31	後期試験	後期分の復習。	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>特定の教科書は使用せず、講義の骨格を記したレジメを配布し、図表・絵画・写真・史料などをスライドで紹介する。</p> <p>全体にわたる参考文献は次の通り。各論については講義で紹介する。佐藤信・近藤成一『日本の古代中世』放送大学教育振興会、2017年。杉森哲也『日本近世史』放送大学教育振興会、2013年。季武 嘉也『日本の近現代—交差する人々と地域—』放送大学教育振興会、2015年。五味文彦・杉森哲也『日本史史料論』放送大学教育振興会、2015年。石上英一ほか『日本の時代史』全30巻、吉川弘文館、2002-2004年。</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>1) 履修の心構え 遅刻、私語厳禁とします。</p> <p>2) 学びを深めるために 前回の配布資料で、どこまで学習したのかを必ず確認しておくこと。配布資料への書き込みや自分のノートなど、講義内容をメモする習慣を身に着けること。</p>
	<p>評価</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1) 基礎的な知識の習得を確認するための小テストを実施する (5点×10回=50点)。</p> <p>2) 理解度を確認するため論述式の試験を実施する。前期1回、後期1回の計2回 (25点×2回=50点)。</p> <p>1)および2)の計100点満点で成績評価する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング実習	後期	水3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	大井 肇	2年	ohi@okiu.ac.jp、研究室(5522)、オフィスアワー月4	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義は、基本的なプログラミング技術を習得した者を対象とした応用的な範囲を含む教職用（情報科）の科目となります。教職課程を専攻する者を対象としてはいるが、それ以外の学生でプログラミングに興味がある者は登録を受け付けます。基本的にプログラミング言語はjavaを用い、実習および課題制作を中心に進めていきます。	プログラミングは、複雑な問題を単純な要素に分解することからはじまります。そして分解した各要素が互いにどのように関係しているのかを捉えることで、問題の理解が深まり、解決の糸口が掴めます。試行錯誤の連続になりますが、その経験によって問題解決能力が育まれていきます。粘り強く取り組んでいきましょう。
到達目標	① 構造化プログラミングを理解し、その実装ができる。 ② オブジェクト指向プログラミングを理解し、その実装ができる。 ③ システム設計を行い、それに従った実装ができる。	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1：ガイダンス 2：構造化プログラミング 3：オブジェクト指向プログラミング 4：クラス 5：まとめと確認テスト 6：javaプログラミング応用例1 7：javaプログラミング応用例2 8：javaプログラミング応用例3 9：javaプログラミング応用例4 10：課題システム構築1 11：課題システム構築2 12：課題システム構築3 13：課題システム構築4 14：課題システム構築5 15：制作システムプレゼンテーション1 16：制作システムプレゼンテーション2
	テキスト・参考文献・資料など <ul style="list-style-type: none"> ・柴田 望洋「明解 Java 入門編」SBクリエイティブ（2007） ・柴田 望洋「明解Javaによるアルゴリズムとデータ構造」SBクリエイティブ（2007） ・小森裕介「なぜ、あなたはJavaでオブジェクト指向開発ができないのか」技術評論社（2004） ・Robert Simmons Jr. 「Java魂ープログラミングを極める匠の技」オライリージャパン（2004） また理解の手助けとなる資料を随時配布します。
	学びの手立て ① 毎回、出欠を取ります。欠席するのであれば、できれば事前にメールをください。また翌週に、「欠席届け」を提出してください。 ② 講義において、求められる課題（宿題）の提出期限は、必ず守るようにしてください。 ③ 準備学習に要する時間は2時間程と考えますが、講義内容の理解が不十分あるいは課題の進捗が思わしくなければ、さらに時間をかけてください。 ④ 講義に関する疑問は放置せず、講義中に尋ねることはもちろん、オフィスアワーあるいはメールを利用しながら、自ら積極的に解消してください。
評価	学習への取り組み姿勢も評価したいと考えるため、受講態度となる平常点(20点)、課題レポート(10点)そして学期末試験(70点)の総合評価とします。

学びの継続	次のステージ・関連科目 本演習におけるプログラミングの応用レベルの習得を基礎とし、教職（情報）における「情報システム」に類される「システム設計実習」、「情報処理システム演習」そして「データベース」に取り組んでもらいたいと考える。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	法学概論	通年	火4	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-長嶺 弘善	1年	教室または授業時間前後の非常勤教員控室で受け付ける。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>法は社会における人々の行為規範として機能しており、私たちは法と向き合って暮らさざるをえない。日常生活における契約関係、予期しない交通事故などの損害賠償、婚姻・離婚と親子関係における法的保護、そして人の生死にかかわる法律問題など、さまざまな法現象が存在する。社会人として有益な、これらの法現象理解の一助としたい。</p> <p>到達目標 講義はできるだけ具体的事例に即しておこなう。法とは何か、法はこの社会においてどのように機能しているのか、さらに、自分自身の行動がどのように法と関連づけることができるのかを理解しよう。そして、身の回りに生起する具体的な問題を法的に思考し、解決する助けとなることを期待する。</p>	<p>授業は一方通行ではなく、学生の間に入り、質問・対話を取り入れながら進める。教室はすべて自由席で、演劇鑑賞と同じく前方の席が特等席である。しかし鑑賞と違い、参加型講義を目指しているの で、常に思考回路を働かせてもらいたい。なお、飲食・携帯・私語は禁止です。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	登録確認および導入：法現象	本シラバス熟読
	2	六法の使い方：大学の単位と法	学則中の「単位」条文熟読
	3	社会規範：法と道徳の異同	教科書一読・再読、ノート整理
	4	法の存在形式：法源論と分類論	教科書一読・再読、ノート整理
	5	法の適用：解釈と適用	教科書一読・再読、ノート整理
	6	憲法原則：統治章典、権利章典	教科書一読・再読、ノート整理
	7	日本国憲法制定：押付か革命か	教科書一読・再読、ノート整理
	8	人権の本質：自然権	教科書一読・再読、ノート整理
	9	自由権：表現を中心に	教科書一読・再読、ノート整理
	10	包括的人権：幸福と平等	教科書一読・再読、ノート整理
	11	生存権と教育権	教科書一読・再読、ノート整理
	12	労働：労働契約、労働基準	教科書一読・再読、ノート整理
	13	刑法：罪刑法定、違法と有責	教科書一読・再読、ノート整理
	14	刑法：新しい刑法、裁判員制度	教科書一読・再読、ノート整理
	15	国際関係と人権	教科書一読・再読、ノート整理
	16	前期試験	ノート読み直し
	17	前期試験講評	教科書流し読み
	18	民法家族法：親族	教科書一読・再読、ノート整理
	19	婚姻成立：婚姻意思と届出	教科書一読・再読、ノート整理
	20	婚姻効力：身分と財産、日常家事	教科書一読・再読、ノート整理
	21	離婚：成立と効果、財産分与	教科書一読・再読、ノート整理
	22	離婚：子どもの親権・監護権	教科書一読・再読、ノート整理
	23	相続：遺言自由と非嫡出子	教科書一読・再読、ノート整理
	24	民法財産法：法律行為論	教科書一読・再読、ノート整理
	25	契約自由の原則：有効要件	教科書一読・再読、ノート整理
	26	消費者契約：特別法による保護	教科書一読・再読、ノート整理
	27	不法行為：成立、過失責任	教科書一読・再読、ノート整理
	28	不法行為：効果、損害賠償論	教科書一読・再読、ノート整理
	29	権力分立：三権、法制定	教科書一読・再読、ノート整理
30	権力分立：司法、法番人	教科書一読・再読、ノート整理	
31	期末試験	ノート読み直し	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書：中川淳編『新やさしく学ぶ法学』法律文化社（2,600円） 法令集：『ポケット六法 平成28年版』有斐閣（1,800円）等 参考書：竜崎喜助『生の法律学【改訂版】』（尚学社）、稲垣明博『生活と法律—生命の誕生から終焉まで【改訂版】』（泉文社）、大村敦志『生活民法入門—暮らしを支える法』（東京大学出版会）、初宿正典『いちばんやさしい憲法入門【第3版】』（岩波書店）</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>授業は教科書に沿って進めるので、教科書一読し、六法持参して出席すること。講義に集中することが大切である。質問を大いに歓迎するが、飲食・携帯・私語は禁止する。さらに、講義の聞きっぱなしで終わるのではなく、教科書再読・ノート整理など、自学することが重要である。また、講義中に配布する資料・プリント類を読み込むことで、理解は一層深まるであろう。なお、上記参考書どれか一冊でも、土日など利用して、読み通すことを期待する。</p>
	<p>評価</p> <p>評価基準および出欠席の扱いについては、『学則』・『学部履修規程』による。 前期・後期の期末試験（穴埋め式および正誤式）で評価する。試験得点調整が必要な場合、出席を考慮する（1割程度）。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>法学に興味があれば、法学部専門科目を聴講するのも良い。社会で発生する様々な法現象に、継続的に興味を持ち、法的推論を働かせることを期待する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マルチメディア実習	前期	火3	1
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-中西 利文	2年	メールにて受け付ける ptt465@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本実習では、グラフィックツールの基本的な操作及び効果的な表現技術の習得を目的とする。ドロー系、ペイント系の特徴を理解し、うまく使い分け、統合することで効率的な画像資料作成技術を身につけ、オリジナルコンテンツ作成までを実習する。	いろいろとチャレンジして慣れることが習得への近道です。初めてでも問題ないので興味のある学生は気軽に受講して下さい。

到達目標	ドロー系、ペイント系それぞれの特徴を把握し、効率的にグラフィックコンテンツを作成することができるようになる。
------	--

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	操作方法の復習、表現方法の応用
	2	Adobe Photoshop の効率的な操作について (1)	操作方法の復習、表現方法の応用
	3	Adobe Photoshop の効率的な操作について (2)	操作方法の復習、表現方法の応用
	4	Adobe Photoshop の効率的な操作について (3)	操作方法の復習、表現方法の応用
	5	Adobe Photoshop の効率的な操作について (4)	操作方法の復習、表現方法の応用
	6	Adobe Illustrator の効率的な操作について (1)	操作方法の復習、表現方法の応用
	7	Adobe Illustrator の効率的な操作について (2)	操作方法の復習、表現方法の応用
	8	Adobe Illustrator の効率的な操作について (3)	操作方法の復習、表現方法の応用
	9	Adobe Illustrator の効率的な操作について (4)	操作方法の復習、表現方法の応用
	10	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (1)	進行遅れの補完作業
	11	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (2)	進行遅れの補完作業
	12	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (3)	進行遅れの補完作業
	13	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (4)	進行遅れの補完作業
	14	オリジナルグラフィックコンテンツ作成演習 (5)	進行遅れの補完作業
15	作品提出、総括	進行遅れの補完作業	
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する
-------	----------------------------

学びの手立て	普段よりいろいろなCGやwebサイト、印刷物などのグラフィック作品を見るようにして下さい。
--------	---

評価	出席状況と10回～15回のオリジナルグラフィックコンテンツ作成演習で作成した作品により、評価する 出席状況30%、作品評価70%
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 他の演習、自主制作、卒業論文において、わかりやすく美しい説明図や視覚表現、レイアウトができるよう継続してグラフィックツールの操作技術の熟練を目指して下さい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	倫理学概論	通年	木5	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-大城 信哉	1年	講義時間内が望ましいのですが、講義終了時にも教室にてお聞きします。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講座は教職を志す人を対象に、倫理学の概略を伝えることを目的としています。最近よく道徳教育の必要ということを聞きますが、教職に就く人が倫理学を学ぶ必要があるのはそうした理由によるものではありません。倫理学研究では、そもそも道徳的であるとはどういうことかの再検討をします本講座では主として前半に倫理学の学説史を紹介し、後半で現代の問題に即して具体的に検討します。</p>	<p>予備知識は取りたてて必要ありませんが、熱心に学ぶ意欲は期待しています。教室で語られるどんなことについてであれ、知らないということ、判らないことは何も悪くはありません。これから知り、判るようになれば良いのです。ただ、自分が判るか判らないかを考えないことは良くありません。自分が判っているかどうかをつねに考え、判らないときには遠慮なく質問してほしいと思います。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 倫理という語の本来の意味から、道徳的であるとはどういうことかまでを理解する。 ・ 現代のさまざまな倫理的立場の違いを知り、自分でも説明できるようになる。 ・ 教育を倫理の観点から考える視点を心得、どのような教育が望ましいかを考える。 ・ 倫理について、あるいは教育について、しっかりした自分自身の考えを作る。 	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	開講にあたって受講者諸君との合意作り。	シラバスを読んでくるように。
	2	倫理という語の意味について考える。	講義後の復習をするように。
	3	倫理という語の成り立ちについても考える。	講義後の復習をするように。
	4	教育の倫理学を考えてみる。	教職の特質について考える。
	5	積極的自由と消極的自由の違いを考える。	講義後の復習をするように。
	6	自由と責任の関係について考える。	講義後の復習をするように。
	7	パターンリズムについて考える。	講義後の復習をするように。
	8	生物としての人間について考える。	講義後の復習をするように。
	9	デューイの思想に触れる①。	人物について自分でも調べる。
	10	デューイの思想に触れる②。	余力があれば原文にもあたる。
	11	自由と権力との関係について考える。	自分の考えをまとめてみる。
	12	教育は誰のためのものかを考える	自分の考えをまとめてみる。
	13	あらためて倫理とは何かを考える。	講義後の復習をするように。
	14	ソクラテスとプラトンの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	15	アリストテレスの倫理学を紹介する。	人物について自分でも調べる。
	16	18世紀のカントの考えを紹介する。	人物について自分でも調べる。
	17	カントの考えについて教室で検討する。	講義後の復習をするように。
	18	功利主義の思想について考える。	現代の問題にあてはめてみる。
	19	功利主義的な自由主義について考える。	自由について自分でも考える。
	20	カント説と功利主義の対立点を考える。	講義後の復習をするように。
	21	正義とは何かを考える。	現代の問題にあてはめてみる。
	22	政治や経済と自由について考えてみる。	講義後の復習をするように。
	23	徳について考える。	講義後の復習をするように。
	24	共同体の意義について考える。	自分の立場にあてはめてみる。
	25	あらためて正義について考える。	講義後の復習をするように。
	26	前期レポート講評。	自分の理解を確認する。
	27	あらためて現代倫理学の課題を考える。	講義後の復習をするように。
	28	教育と倫理との関係をふたたび考える①。	教育の目的を再検討する。
	29	教育と倫理との関係をふたたび考える②。	自分の理解を確認する。
30	どんな理解が得られたかを検討する。	自分の考えを再検討する。	
31	試験およびレポート回収。	余裕をもって望めるように。	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>教科書は使用しません。資料はすべて教室にて配布します。参考文献は必要に応じて教室で指示します。まずは図書館で各種事典類を引く習慣を身につけるように。</p>
学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>受講者の人数にも多少異なりますが、こちらから諸君にも質問します。活発な議論となることを望みます。出席も含めて評価については厳正であるように努めますが、教室での時間は皆さんと楽しく共有したいと願っています。そのためにも講義には積極的に参加するように。あとでというのではなく、まずその場で考えるということをお大切にしたいと思います。なお、欠席の場合、特に事前連絡は必要ありません。あとの確認で十分です。</p>
	<p>評価</p> <p>前期最終回もしくは後期講義時の最初の方で試験をします（試験の日程は名簿が決定したときに受講者諸君の希望を聞いて決めますが、希望が分かれたら前期最終回にします）。他に後期最終回にレポートを提出してもらいます。それぞれ50パーセントの重みですので片方では単位は取得できません。気をつけるように。評価方法の細部は、初回の合意作りのときに希望が出たら考慮します。考えがあれば聞かせてください。出席も取りますが、受講者が出席することは最低限の条件ですので出席それ自体を特別に評価することはありません。</p>
学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>倫理学や哲学は抽象的な議論になりがちですが、具体的な問題を考えるときの重要なヒントを与えてくれます。特に専門家を目指すのでないかぎり人名などを細かく覚える必要はありませんが、教室で学んだ考え方のスキルは当人の努力次第で役立ちます。皆さんがこのあと多くのことを学ぶにあたってぜひ役立てるように努めてください。</p>